

# 平成29年度 第2回小田原市総合教育会議

日時：平成29年10月26日（木）

午前10時から

場所：全員協議会室

## 次 第

### 1. 開 会

### 2. 議 題

(1) 小田原の子どもがめざす姿について

(2) その他

### 3. 閉 会

平成29年度 第2回小田原市総合教育会議 席次

市役所 3階全員協議会室

加藤市長

栢沼教育長

和田委員

萩原委員

吉田委員

【書記】  
高瀬  
係長

【書記】  
室伏  
主査

川口 学校安全課長	菴原 教育指導課長	内田 教育部長	友部 教育部副部長	飯田 教育総務課長	鈴木 教職員担当課長
--------------	--------------	------------	--------------	--------------	---------------

		高田 指導・相談担当課長			
--	--	-----------------	--	--	--

傍聴席

受付

## 小田原の子どもがめざす姿（修正案）

### 「未来を創るたくましい子ども」

これからの時代はますます変化の激しい社会となり、先を見通すことが難しくなります。不確定なればこそ、受け身ではなく、これからの社会を自分たちで創っていかうとするたくましい子どもをめざします。

◆ 自ら考え表現します

◆ 命を大切にします

◆ 心身の健康を大切にします

◆ ふるさとを愛します

◆ 夢の実現に向かって努力します

#### ◆ 自ら考え表現します

変化の激しい社会をたくましく生き抜くためには、学ぶことの楽しさを実感し、自ら進んで学習に取り組む習慣を身に付けることが必要です。また、基礎的基本的な知識・技能等を活用し、見出した課題を解決していくことが必要です。

このため、様々な情報から必要なものを選択し、結論を導き出すために思考し判断すること、そして、伝える相手や状況に応じて表現することをめざします。

#### ◆ 命を大切にします

共生社会の中で、みんなが幸せに生きていくためには、自他の命や人権を尊重することが必要です。

このため、一人ひとりの良さを認め、他者を思いやる心、互いに信頼しかかわり合うことを大切にします。また、豊かな体験を通して、感動したり感謝したりすることを大切にします。

**◆ 心身の健康を大切にします**

困難に直面しても、たくましく乗り越えていくためには、心身ともに健康であることが必要です。

このため、望ましい食習慣と、自ら進んで体を動かす運動習慣を身に付けることをめざします。また、体だけでなく、元気な心を持ち、何事にも根気強く挑戦し続けることをめざします。

**◆ ふるさとを愛します**

情報化やグローバル化が進むこれからの社会の創造するためには、広い視野を持つことが必要です。

このため、小田原の里山・里海の豊かな自然環境と人々の営みによって発展してきた産業、そして小田原の歴史と文化、郷土の偉人の功績を学ぶとともに、社会の一員として、積極的に地域に関わっていくことをめざします。

**◆ 夢の実現に向かって努力します**

将来に向かって、夢を抱き、自ら進むべき道を明確にし、努力を重ねることが必要です。

このため、向上心を持ち、自らの可能性を信じ、粘り強く、夢の実現に挑戦していくことをめざします。

**子どもの育ちを支える姿勢****命****地域****信頼**

小田原市では、＜命、地域、信頼＞をキーワードに、子どもを取り巻く学校、家庭、地域社会、そして行政が、子どもの育ちを支える姿勢を大切にしています。

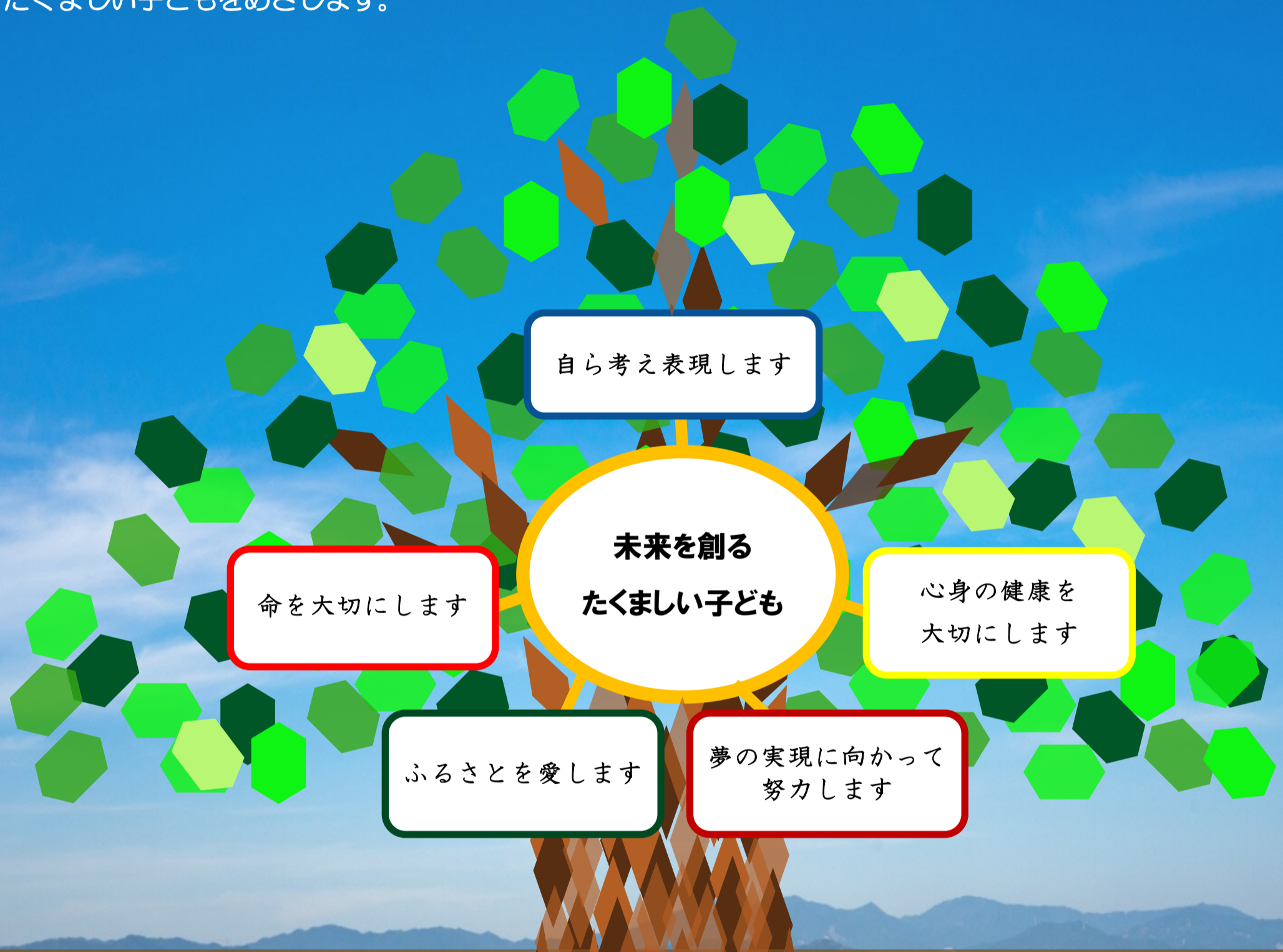
☆ **子どもの命を最優先に守ります。**

☆ **地域ぐるみで、子どもを育てます。**

☆ **学校と家庭、地域社会は、子どもを信じぬきます。**

# 小田原の子どもがめざす姿

これからの時代はますます変化の激しい社会となり、先を見通すことが難しくなります。不確定なればこそ、受け身ではなく、これからの社会を自分たちで創っていかうとすべく、たくましい子どもをめざします。



## 子どもの育ちを支える姿勢 命・地域・信頼

- 子どもの命を最優先に守ります。
- 地域ぐるみで、子どもを育てます。
- 学校と家庭、地域社会は、子どもを信じぬきます。

変化の激しい社会をたくましく生き抜くためには、学ぶことの楽しさを実感し、自ら進んで学習に取り組む習慣を身に付けることが必要です。また、基礎的基本的な知識・技能等を活用し、見出した課題を解決していくことが必要です。

このため、様々な情報から必要なものを選択し、結論を導き出すために思考し判断すること、そして、伝える相手や状況に応じて表現することをめざします。

共生社会の中で、みんなが幸せに生きていくためには、自他の命や人権を尊重することが必要です。

このため、一人ひとりの良さを認め、他者を思いやる心、互いに信頼しかわり合うことを大切にします。また、豊かな体験を通して、感動したり感謝したりすることを大切にします。

困難に直面しても、たくましく乗り越えていくためには、心身ともに健康であることが必要です。

このため、望ましい食習慣と、自ら進んで体を動かす運動習慣を身に付けることをめざします。また、体だけでなく、元気な心を持ち、何事にも根気強く挑戦し続けることをめざします。

情報化やグローバル化が進むこれからの社会の創造するためには、広い視野を持つことが必要です。

このため、小田原の里山・里海の豊かな自然環境と人々の営みによって発展してきた産業、そして小田原の歴史と文化、郷土の偉人の功績を学ぶとともに、社会の一員として、積極的に地域に関わっていくことをめざします。

将来に向かって、夢を抱き、自ら進むべき道を明確にし、努力を重ねることが必要です。このため、向上心を持ち、自らの可能性を信じ、粘り強く、夢の実現に挑戦していくことをめざします。

現行計画	第3回有識者会議提案	修正案
小田原市がめざす子どもの姿	小田原市がめざす子どもの姿	小田原の子どもがめざす姿
3つの心と3つの力を持った 「未来を拓くたくましい子ども」	命・地域・信頼に支えられた 「未来を創るたくましい子ども」	「未来を創るたくましい子ども」
<p>生きる土台としての確かな学力</p> <p>目的意識を持って主体的に学習に取り組み、基礎的・基本的な知識や技能を習得し、問題を解決する力などの「学ぶ力」。また、その習得した力を基に自由に発想し、考えたり表現したりする活動を通して、実生活の場で活用・探求していく「創る力」。さらに、それらの力を土台にして、子ども自身を取り巻く環境を構成している人や自然などのあらゆる事象に興味・関心を持ち、意欲的な関わりを通じて、それらを理解し、共生していこうとする「関わる力」の3つの力を育成します。</p>	<p>自ら考え表現する子ども（確かな学力）</p> <p>学ぶ楽しさを実感し、学習習慣を身に付け、自ら進んで学習に取り組む子どもを育てます。そして、課題に取り組む中で、様々な情報から必要なものを選択し、結論を導き出すために思考し判断する力、そして、伝える相手や状況に応じて表現する力を持った子どもを育てます。</p>	<p>自ら考え表現します</p> <p>変化の激しい社会をたくましく生き抜くためには、学ぶことの楽しさを実感し、自ら進んで学習に取り組む習慣を身に付けることが必要です。また、基礎的・基本的な知識・技能等を活用し、見出した課題を解決していくことが必要です。このため、様々な情報から必要なものを選択し、結論を導き出すために思考し判断すること、そして、伝える相手や状況に応じて表現することをめざします。</p>
<p>多くの人々との関わりで育まれる豊かな心</p> <p>人としての優しさ、愛情、真心などの「温かい心」、思いやり、寛容な心、人の役に立とうとする心などの「広い心」、困難を乗り越え、何事にも挑戦する強い心などの「燃える心」の3つの心を持った子どもを育成します。</p>	<p>多様性を認め合いかわり合える子ども（豊かな人間性）</p> <p>共生社会の中で、自他の命や人権を尊重するとともに、他者を思いやる心と一人ひとりの良さを認め、互いに信頼してかわり合える力を持った子どもを育てます。また、豊かな体験活動や芸術文化に触れながら、感動する心、感謝する心を持った子どもを育てます。</p>	<p>命を大切にします</p> <p>共生社会の中で、みんなが幸せに生きていくためには、自他の命や人権を尊重することが必要です。このため、一人ひとりの良さを認め、他者を思いやる心、互いに信頼しかわり合うことを大切にします。また、豊かな体験を通して、感動したり感謝したりすることを大切にします。</p>
<p>元気な心と健やかな体</p> <p>未来を拓いていく力を持つためには、健やかな体が必要になります。そのため、生きる上での基本である望ましい食習慣を身に付けさせます。また、日頃から体を動かす習慣を身につけさせ、基礎体力を育みます。体だけではなく、元気な心を持つことで何事も前向きに取り組むことができるようになることから、元気な心と健やかな体を持った子どもを育成します。</p>	<p>心身ともに健やかな子ども（健康・体力）</p> <p>生きていく上で大切な望ましい食習慣を身に付けるとともに、自ら進んで体を動かす習慣を身に付けます。また、体だけでなく、元気な心を持ち、何事にも根気強く挑戦し続けていく態度を身に付けた子どもを育てます。</p>	<p>心身の健康を大切にします</p> <p>困難に直面しても、たくましく乗り越えていくためには、心身ともに健康であることが必要です。このため、望ましい食習慣と、自ら進んで体を動かす運動習慣を身に付けることをめざします。また、体だけでなく、元気な心を持ち、何事にも根気強く挑戦し続けることをめざします。</p>
<p>郷土を愛し、大切にしたい</p> <p>小田原は、酒匂川のつくり出した足柄平野を中心に、西は箱根火山、東は大磯丘陵、南は相模湾に面している等、豊かな自然環境に恵まれています。さらに、旧石器時代から人が住んでいた痕跡が見つかることから脈々と人の営みが続いていることがわかる歴史があります。この身近な自然と歴史を子どもたちに伝え、そこから新しい未来を拓く力を育成します。</p>	<p>ふるさとを愛する子ども（郷土愛）</p> <p>小田原で生まれ育ったことに誇りを持ち、里山・里海の豊かな自然環境と、人々の営みによって発展してきた産業を、大切にしたい心と態度を身に付けた子どもを育てます。また、小田原の歴史と文化、郷土の偉人の功績を学び、自分の生き方につなげたり、これからのまちづくりに役立てたりする、郷土を愛する心を持った子どもを育てます。</p>	<p>ふるさとを愛します</p> <p>情報化やグローバル化が進むこれからの社会の創造するためには、広い視野を持つことが必要です。このため、小田原の里山・里海の豊かな自然環境と人々の営みによって発展してきた産業、そして小田原の歴史と文化、郷土の偉人の功績を学ぶとともに、社会の一員として、積極的に地域に関わっていくことをめざします。</p>
<p>おだわらっ子の約束を实践</p> <p>本市には、平成19年に制定した「おだわらっ子の約束*」があります。これは、小田原の子どもも大人も、みんなでもっとも守っていきたくルール、子どもたちに身につけてほしいことなどを「おだわらっ子の約束」という「ことば」にして、地域ぐるみで子どもの健全育成が進められるようにしたものです。子どもたちが守るべきルールや行動目標が、家庭、地域、学校等の共通理解のもとに徹底され、教育の行き届いたまちをめざす「小田原市教育都市宣言*」の理念の実現を図っていくため、おだわらっ子の約束を实践する子どもを育成します。</p>	<p>社会に貢献する子ども（自立・貢献）</p> <p>持続可能な社会の創り手として、社会に出て自立していく力と、社会の中の一員として、積極的に地域にかかわり、社会参画していく意識と態度（公共の精神）を身に付けた子どもを育てます。</p>	<p>夢の実現に向かって努力します</p> <p>将来に向かって、夢を抱き、自ら進むべき道を明確にし、努力を重ねることが必要です。このため、向上心を持ち、自らの可能性を信じ、粘り強く、夢の実現に挑戦していくことをめざします。</p>

No	意見	対応方針
1	<p>○「命・地域・信頼に支えられた」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長が言っている「命・地域・信頼」という三本柱は絶対に大事だと思う。</li> <li>・子どもたちってものすごく自分達からいろんなことをやっていく。そうすると「支えられた」という表現でいいのか。</li> <li>・今、大人が思っているほど、子どもたちは大人を信頼していない現実がある。引きこもりというのは、会話しない位、大人や親に対して不信感を持っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➡「支える」のは、教職員、保護者、地域、行政等の役割であり、子どもの姿と切り離して考える。</li> <li>➡「命・地域・信頼に支えられた」を削除する。</li> </ul>
2	<p>○「未来を創るたくましい子ども」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「未来が不確実であるならば、自分たちで創っていくしかないだろう」という言葉がある。変化の激しい社会を乗り越えるという視点が今回の学習指導要領の改訂の背景になっている。また、中教審の答申の前文に「未来が見えない、だから自分たちで創っていくんだ」というフレーズもあった。</li> <li>・受け身ではなくて、積極的に自分たちが主体となって関わっていくという人間でないと、変化の激しい社会を乗り越える力というのは生み出せない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➡ご意見の趣旨通り、自らの意思で未来を創る子どもの姿を目標としたい。</li> <li>➡「小田原市がめざす子どもの姿」ではなく、「小田原の子どもがめざす姿」に修正するとともに、各項目においても、子どもが主体であることを明確にする。</li> </ul>
3	<p>○知・徳・体について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「命・地域・信頼」という言葉がすべてを表しているとしたら、こんなに知・徳・体にこだわらなくてもいいかなという気がする。</li> <li>・いつも「知・徳・体、確かな学力、豊かな心、健やかな体」が目標にあるが、なかなか実現できず、いろいろな不具合が出てきているという状況も一方ではある。知・徳・体ということに、敢えてここでこだわる必要があるのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➡知・徳・体のあり方は、教育現場の教職員に計画の方向性を具体的に伝達していくうえで、必要な要素であり、シンプルな形で記載したい。</li> <li>➡大人が地域ぐるみで積極的に「命・地域・信頼」の社会を作り、子どもたちが自らの可能性を追求しながら育つことができるような環境を整備する形で整理したい。</li> <li>➡「子どもの育ちを支える姿勢」を、命・地域・信頼というキーワードをもとに明記したい。</li> </ul>
4	<p>○自ら考え表現する子ども(確かな学力)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「基礎・基本の習得」は何をさておいても大事なことであり、しっかり書いておいた方が良い。</li> <li>・これからの時代に必要なものは、学んだことを社会や自分の生き方に生かしていく、それが学びに向かう「学習意欲」であると思う。</li> <li>・未知なものに対して自分で解決していくような思考、判断、表現や、生きて働く知識、技能等が言われている。主体的に学んだことを自分のものとしてしっかり獲得し、課題を解決していくというような強い意志のある言葉にするといい。</li> <li>・「未来を創る」ということにもつながる強い言葉、獲得していくんだという意思がこれから必要な学びになっていく。</li> <li>・社会に学びを活かすことや、未知なものに対してしっかりと自分で捉え考えて表現していくことが、これから求められているアクティブなものではないか。</li> <li>・確かな学力も当然必要だが、例えばクエスチョンをする力とか、自分で何か学んだことを試してみる意欲とか、今ないものを作る喜びを感じるか、大人が社会をどう捉えているかを子どもの中に込めていかないと、サバイバルできない。</li> <li>・今後は世界50億の人々がスマホでつながるネット社会で、情報処理するだけの力ではもう太刀打ちできない。今後は情報を調整する力、プログラミングというものを子どもたちに身に付けさせていかないと、将来、就く仕事がなくなってくる。</li> <li>・キーワードとして、「自ら考え表現する子ども」の中に、「知的好奇心」という言葉を入れたらどうか。</li> <li>・「判断する力」の教育は十分にされているが、それを表現する際に、何が一番決め手になるのかといたら、「決断する力」だと思う。判断力プラス決断することがものすごく今の教育の中で欠けている。</li> <li>・不確実な未来に向かって、「確かな学力」はどういうことかと考えると、「学び続ける力」が大事だと思う。世の中がいろいろ変わっても、自分で学ぶことによって、それに対応していくことができるというようなもの。</li> <li>・教育の一番の核心は、個々の子どもたち一人ひとりの能力の開発だと思う。体力にしても知力にしても。あらゆるものに対して、能力の開発ができるかどうかというのが、一番教育で大事なことだと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➡基礎・基本の習得は、とても重要なことであり、学習習慣を身に付け、繰り返し学ぶことが必要だと考えている。</li> <li>➡主体的・対話的な深い学びや、コミュニケーション能力が重視されており、「表現」という言葉でそれらを表したい。</li> <li>➡学ぶことが楽しい・もっと学びたいと感じた経験が、主体的な学びには必要である。また、主体的な意識をもって学んだことしか、自分のものとならない。</li> <li>➡それぞれの子どもが持っているポテンシャルを引き出し、伸ばすことが大切であり、能力の開発は重要であると考える。</li> </ul>

No	意見	対応方針
5	<p>○社会に貢献する子ども(自立・貢献)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会に貢献する子ども」等、夢を持つことができなくなってしまうイメージがあって、重たく感じている。</li> <li>・「社会に貢献する」という表現は、「社会にチャレンジする」とか、言葉の使い方ひとつで出てくるイメージが、やろうって気持ちになるか否か、全然違って来る。</li> <li>・どんな言葉を使うのかは、「どんな思いを込めているのか」ということにつながる。</li> <li>・子どもたちがちゃんと食っていける力がつけばいい。きれいごとを並べたって食っていけなければしょうがない。ちゃんと自立してくれたいと思う。</li> <li>・「社会に貢献する子ども、自立・貢献」ということが書かれているが、社会に貢献するというのは豊かな人間性であり、豊かな心である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➡子どもたちは、自ら夢を持ち、それに向かって挑戦しつづける姿を表現したい。</li> <li>➡社会的自立に向かって地域ぐるみで子どもの育ちを支え、社会性、公共性などを教える立場として参画することを促す表現としたい。</li> </ul>
6	<p>○「おだわらっ子の約束」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おだわらっ子の約束」をよくよく読んでいくと、命・地域・信頼のエッセンスが全部入っている。</li> <li>・「おだわらっ子の約束」は、大人が読んででも非常にいいことが書いてあって、改めてこういうことを頭に入れないといけないと思う。子ども達にもやはり、時間を取ってわかりやすく教えるような時間があってもいい。</li> <li>・「おだわらっ子の約束」の実践はまさに人間形成の根幹と捉えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➡「命・地域・信頼」の社会を作るのは大人の役割である。子どもたちには、命・地域・信頼のエッセンスが入った「おだわらっ子の約束」を身に付けさせることが重要であると考えている。</li> </ul>
7	<p>○発想の転換について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に「教育のゴールが変わる」ということを、どれだけ真剣に捉えられるのか。2030年のゴールの時に、本当に小田原の子どもたちがどういう子どもになっていることを私達は願っているのか。</li> <li>・印象としては私たちがどこまで発想を変えられるか。2030年の問題をどこまで自分事として引き寄せて、どんな言葉を使うか、そこにどんな思いを込めていくのか練り上げが必要だ。</li> <li>・私たちの発想が変わらないと、たぶん出てくる言葉というのは今までの言葉を並べ替え、装飾する程度となってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➡教職員や保護者、教育を取り巻く人たちが、グローバルで高度情報化社会に対し、どのように立ち向かっていくのかについてのビジョンを持たないと教育活動は行えないと考えている。</li> </ul>
8	<p>○表現について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ市民や学校職員に短いすっきりした中で、伝えたいことを伝えていくためには、強い言葉でしっかり伝えるということを工夫しなければいけない。</li> <li>・未来を創るのは子どもたちなので、子どもたちにこれを見てもらい、子どもたちがどう思うのかを知りたい。</li> <li>・子どもがここにいる、大人がぎゅうぎゅうやるみたいなイメージがある。子どもの姿ではなく、大人が理想とする子どもを作り上げようとするような感じがある。</li> <li>・子どもの姿に、「これもでき、あれもできます」というのではなくて、もっと個性が豊かに伸びられるような、もう少し漠然とした方向性でも良いのではないか。子どもの生き生きとした姿が浮かばない。</li> <li>・福祉の分野では、子どもが伸びていく力があって、それを支えるために環境を用意するのが大人の役割だと考える。</li> <li>大人がこの「命・地域・信頼」の社会を作って、子どもが育つことができるように環境整備することではないか。</li> <li>・イメージができて初めてそれを実現していくという姿が見えてくる。イメージがなければ実際に実現しない。子どもたちの教育実践の中でもどういったイメージを子どもたちに持たせることができるか、というのが最大の魅力となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➡子どもの姿については短くすっきりとした表現としたい。</li> <li>➡子どもを取り巻く学校、家庭、地域社会、行政等の姿勢については、その方向性が伝わるよう文章により記述したい。</li> </ul>



小田原市学校教育振興基本計画策定有識者会議名簿

	氏 名	所 属 等	備 考
学 識 経 験 者	重松 克也	横浜国立大学 教育学部 学校教育課程 社会科教育 教授	
	笠原 陽子	玉川大学 大学院 教授	
	望月 國男	秦野市教育委員（教育長職務代理者）	
市 民	綿引 いずみ	公募市民	
教 育 委 員 会	栢沼 行雄	小田原市教育長	
	和田 重宏	（教育長職務代理者） 子どもと生活文化協会（CLCA）顧問	
	萩原 美由紀	アール・ド・ヴィーヴル理事長	
	吉田 眞理	小田原短期大学保育学科教授	
	森本 浩司	医師	
学 校 関 係 者	穂坂 明範	小学校長会長	
	岩崎 由美子	中学校長会長	
	鈴木 晶子	幼稚園長会長	

組織	平成29年												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
<b>【庁内検討組織】</b> ○教育総務課 ○学校安全課 ○教育指導課 ○関連する所管課		5/1号 市民募集 広報おだわら 公募期間	従前計画の振り返り 課題の抽出	重点項目の検討			計画の取りまとめ	計画案提示	パブリックコメント 12/15～1/15 市民意見聴取	計画の修正・周知準備		計画策定	報告・周知
<b>【有識者会議】</b> ○インクルーシブ ○就学前教育 ○コミュニティスクール ○アクティブラーニング ○体験学習			7月13日 第1回 有識者会議(全体) 従前計画の振り返り 重点項目の方向性	8月31日 第2回 有識者会議 点検評価の結果 評価指標の検討①	10月4日 第3回 有識者会議 めざすことこの姿	11月6日 第4回 有識者会議 骨子案の検討				1月下旬 第5回 有識者会議 修正案検討			
<b>【総合教育会議】</b> ○市長 ○教育委員 ○関係所管課			7/25 第1回 総合教育会議 計画の進捗報告 平成30年度教育予算事業		10月26日 第2回 総合教育会議 めざすことこの姿					2月中旬 第3回 総合教育会議			
教育委員会定例会				8月25日 定例会 点検評価議決			11月下旬 定例会 パブコム実施					◎ 3月下旬 定例会 計画の承認	
厚生文教常任委員会					9月11日 常任委員会 経過報告 点検評価報告		12月6日 常任委員会 パブコム実施			2月下旬 常任委員会 パブコム報告 計画案提示			4月下旬 常任委員会 策定の報告
点検評価事務		重点項目関連 事業等の点検評価 6/29 第1回 ヒアリング	7/28 第2回 ヒアリング	報告書取りまとめ									
予算関係 ○政策示達 ○政策復活 ○市長査定				8/4 概算要求 提出		○部局梓 示達	○経常 締切	○政策 締切		○政策 示達	○政策 復活	○市長 査定	